

人文学部プロジェクト活動報告

人文学部は、以下のプロジェクトに戦略的経費（研究プロジェクト助成）を配分しています（右は代表者名）。

刊行物助成

英語と英米文学	宮原一成
独仏文学	下寄正利
山口地域社会研究	速水聖子
山口大学哲学研究会	村上 龍

『英語と英米文学』

本誌は、山口大学文理学部・教育学部・教養部の英語関係教員を母体とする同人の紀要として1965年に創刊され、以来年に1回の発刊ペースで着実に号を重ねている。創刊時の編集責任の欄には、「山口大学文理学部英米文学研究室」と表示されていた。現在は、人文学部の英語学・英米文学コースの教員を中核とし、山口大学の教育学部・経済学部・工学部・国際総合科学部に在籍する英語学・英米文学・英語教育・英語圏文化の研究者たちが集い、ベテラン・若手の区別なく、それぞれの研究成果を報告し披瀝する媒体として、有効に機能している。本格的な論考はもちろん、論文完成への足がかりとするための準備的な研究ノートや教育活動実践報告なども収録し、研究活動を学内外に報告・還元する場として活用されている。

また、掲載された論文や記事は、その電子版が山口大学学術機関リポジトリYUNOCAを通して順次閲覧できるようになっている。近年の号では、論文・記事に

よってはダウンロード数が2000件を超えるものもいくつか見られる。この紀要の高い対外的発信能力を示すひとつの指標であろう。

第50号は2015年12月に上梓、その収録記事は、

宮原一成（人文学部教授）、「*The Pyramid*の非倫理的な読み手から学ぶ《読むことの倫理》」【論文、英文学】

鴨川啓信（経済学部教授）、「物語アーカイブスの拡大—〈シャーロック・ホームズ〉物語を事例とした考察—」【論文、英文学・物語論】

福屋利信（国際総合科学部教授）、「国際総合科学部のグローバル・イングリッシュ戦略：セブ・シティから世界をつかめ！」【教育実践報告】

以上の3本である。この各記事も、冊子体で刊行された直後に、電子化公開の手配をすることになっている。

（宮原一成）

『独仏文学』

山口大学『独仏文学』は、山口大学独仏文学研究会が年1回刊行している学術誌で、今年度で第37号となる。

山口大学独仏文学研究会は、ドイツ語学・文学あるいはフランス語学・文学を研究領域としている教員の内の希望者を正会員とし、その他、元正会員だった者の内の希望者を名誉会員、更に、ドイツ語・ドイツ語学・ドイツ文学あるいはフランス語・フランス語学・フランス文学の非常勤講師の内の希望者を準会員としている。

第37号の掲載論文は、次の3本である。

ゲルマン語*būanをめぐる音韻・形態論上の諸問題

下寄正利

Spurensuche gegen das Vergessen

Zu Elisabeth Gilles Roman „Landschaft aus Asche“

Unter Einbeziehung ihres Romans „Erträumte Erinnerungen“

Felicitas Dobra

Siegfried Kracauer et *Tartuffe*

Michel de Boissieu

執筆者は3名とも正会員で、内、下寄正利と Michel de Boissieu は人文学部所属である。

(下寄正利)

山口地域社会研究

「山口地域社会研究」プロジェクトは山口地域社会学会の研究活動より成り立って

いる。

2015年は、3月9日(第37回)・7月4日(第38回)・11月14日(第39回)の計3回の研究例会を開催した。研究例会は、会員によるそれぞれの研究発表を毎回2〜3本ずつ報告する形で行われ、活発な意見交換がなされている。

今年度は、山口県内大学の社会学研究者を中心に新たな会員による研究発表が多くなされるとともに、自治体関係者や市民活動関係者による例会への参加があったことも特筆すべき点である。研究例会が山口における地域社会研究ならびに地域活動実践のネットワーク作りに貢献できることを期待したい。

なお、今年度の研究例会の成果を踏まえて、年度末に学術雑誌『やまぐち地域社会研究』(第13号)を刊行する予定であり、現在、編集作業を進めているところである。また、第13号は2014年に逝去された湯川洋司先生の追悼号として刊行される予定である。

(速水聖子)

山口大学哲学研究会

山口大学哲学研究会は、山口大学に所属する哲学・思想系の教員を中心とする組織で、会誌の発行、合評会、研究発表会などの活動を行っています。

現在、正会員(学内の常勤教員である会員)は13名で、そのうち、人文学部の教員は、ジュマリ・アラム、柏木寧子、栗原剛、藤川哲、村上龍、横田蔵人、脇條靖弘の7名です。他学部の正会員は、岡村康夫(教育学部)、佐野之人(同)、村上林造(同)、

山本勝也（経済学部）、小川仁志（国際総合科学部）、青山拓央（時間学研究所）の6名です。また、名誉会員（過去に山口大学に所属したことのある、学外の会員）は19名で、そのうち、人文学部の元教員は、上野修、遠藤徹、奥津聖、加藤和哉、木村武史、周藤多紀、武宮諦、田中均、外山紀久子、林文孝、古荘真敬、頼住光子の12名です。

2015年度には、会誌『山口大学哲学研究』の第23巻を発行する予定です（3月に発行の予定）。岡村康夫、柏木寧子、佐野之人、村上龍、脇條靖弘の5名が論文等を執筆しています。人文学部より支給された「平成27年度研究経費に係る戦略的経費（刊行物助成）」を、印刷・製本費用の一部に充てさせていただきました。

なお、本年度は、村上龍、横田蔵人の2名が運営委員を担当しました。

（村上龍）